

ここいろ kokoiro

情報誌
2023.5

伊丹市立男女共同参画センター「ここいろ」は
性別にかかわらず、個性と能力が発揮できる
社会づくりの拠点施設です。
誰もが気軽に訪れ、学び、交流できる、
地域に開かれた男女共同参画センターを
目指しています。

[https://
www.itami-
kokoiro.jp](https://www.itami-kokoiro.jp)

「男性にとっての ワーク・ライフ・バランス」

多賀 太さん

家事や子どもの世話は一切妻に任せ、
家族を養うためにひたすら長時間労働に励む。

従来の男性の典型的な働き方といえば、
このようなイメージではないでしょうか。

しかし近年、そうした男性の働き方の見直しが急速に広まっています。

男性にもワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活や余暇との調和)が求められています。

ここでは、私の近著『ジェンダーで読み解く男性の働き方・暮らし方』の一部を紹介しながら、
男性のワーク・ライフ・バランスが求められる背景について考えて見たいと思います。

社会と地域の持続可能な発展

男性のワーク・ライフ・バランスが求められる背景の1つに、社会と地域の持続可能な発展が挙げられます。日本社会は、戦後の復興期から1990年代初頭のバブル経済崩壊の頃までは、「男は仕事、女は家事・育児」という分業体制のもとで経済成長を遂げ、物質的に豊かな社会を実現してきました。しかし、1990年代を境に、そうした分業体制では社会が立ちゆかなくなりつつあります。急速な少子高齢化が進行するなか、男性だけではもはや働き手が足りなくなってきました。そこで政府は女性活躍を進めようとしていますが、女性がこれまで担ってきた育児や介護といった家庭責任の負担を軽減することなく、女性にこれ以上の働きを求めるのは酷な話です。

このように、家庭責任を女性に任せて男性だけが長時間働くという分業体制は、理念としてそれに賛成か反対かという以前に、現実問題としてもはや現在の社会情勢にそぐわないものとなってきています。人口減少の中で今後も日本の社会と地域が持続可能に発展していくには、男女双方が効率よく働きながら、家庭の責任も分かち合うライフスタイルと、それを可能にする社会的条件の整備が要請されているというわけです。

男性の働き方の変化が女性活躍を後押し

男性のワーク・ライフ・バランスの促進は、女性の経済的自立や活躍を後押しするうえでも、極めて重要です。なぜなら、男性のこれまでの働き方が、女性が社会で活躍しにくい状

況を生じさせてきた大きな原因の1つだからです。

男女雇用機会均等法が施行されて35年以上が経過しましたが、日本では、女性の管理職や専門職は男性に比べて非常に少ないままです。民間企業における女性管理職の割合は、欧米諸国では30~40%台であるのに対して、日本ではわずか15%となっています(内閣府『男女共同参画白書令和元年版』)。なぜでしょうか。

確かに、管理職になりたいという意識が男性よりも女性では低い傾向にあることも事実です。しかし、これを単に「女性の意識の低さ」のせいにするわけにはいきません。ある調査によれば、大卒女性社員の62%が入社1年目には「管理職を目指したい」と答えていたのに、入社4年目ではその割合が40%に減っていました。そして、女性が管理職を目指したくない理由として最も多かったのが、「仕事と家庭の両立が困難になるから」でした(国立女性教育会館「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」)。

ここからは、次の2つの問題が見えてきます。1つは、家庭責任との両立が不可能なくらい過酷な長時間労働をしなければ、管理職になったり管理職を務めたりすることが難しいという働き方の問題です。もう1つは、男性が家庭責任を十分に果たしておらず、その結果女性に家庭責任が重くのしかかっているという問題です。

ただし、男性が家庭責任を十分に果たしていないことを、すべて「男性の意識の低さ」にしてしまうわけにもいかないでしょう。いくら家庭責任を担いたくても、長時間労働を強いられてそれがかなわない男性も少なくありません。

これらの問題を一手に解消する鍵の1つが、男性のワー

ク・ライフ・バランスを可能にする働き方改革です。男性が仕事中心の生活から結婚後も仕事と家事・育児を両立させる生活へと変われば、妻の家庭責任を軽減し、既婚女性の職業労働における活躍を家庭生活の面から支えることができます。また、管理職も含めた男性労働者たちがよりワーク・ライフ・バランスのとれた働き方をできるようになれば、私生活を犠牲にして仕事を優先させるような働き方をしなくても管理職を務められる可能性が広がり、結婚や出産を望む女性たちも安心してキャリアアップを目指しやすくなります。

稼ぎ手責任の重圧からの解放

男性のワーク・ライフ・バランスが可能な社会への取り組みは、男性自身の様々な生きづらさの解消にもつながります。

これまでの社会は、女性に対して社会的活躍の機会を大幅に制限する一方で、男性に対しては仕事での成功や稼ぎ手責任といった「男らしさ」の達成を求めてきました。しかし、すべての男性がそうした理想的な男性像に見合う生活を実現できるわけではありません。男の理想像が狭く定義された社会は、そうした理想の達成が困難な男性にとっては、社会の理想と自らの実態とのギャップによって苦しみやすい社会でもあります。

たとえば、女性では、就業形態によって結婚している人の割合にほとんど違いがないのに対して、男性では、正規雇用比べて、それ以外の就業形態では結婚している人の割合がかなり低い傾向が見られます。依然として、男性には「稼ぎ手」としての責任が重くのしかかっており、それに苦しんでいる男性も少なくありません。

また、稼ぎ手の役割を果たせている男性の多くも、それと引き換えに望まない長時間労働を強いられ、育児や私生活にもっと時間を割きたくてもそれがかなわない状況に置かれています。

健康と生活の質の向上

仕事に偏った生活が男性の健康を蝕んでいる様子もうかがえます。日本人間ドック学会が2012年の全国約320万人の健診データを分析したところ、生活習慣病の因子とされる肥満、高コレステロール、高中性脂肪、肝機能異常の4つの項目の数値が、女性では年齢とともに上昇していたのに対して、男性では働き盛りの50代でピークを迎え、退職者が増える60代になると低下していました（朝日新聞2014年1月21日大阪本社版夕刊）。男性の場合、仕事が健康リスクを高めているというわけです。

また、政府の統計によると1990年代末以降、男性の自殺者数は女性の約2倍かそれ以上である状況も続いています。2020年の自殺の動機を見てみると、「経済・生活問題」が女性6%に対して男性21%、「勤務問題」が女性4%に対して男性12%となっています。男性では仕事や経済的な理由で自殺にまで追い詰められる人の割合が女性よりも高い傾向がうかがえます。

これらはいずれも、男性の稼ぎ手責任の重さや仕事に偏った生活が男性にもたらしている否定的な側面であるという点で共通しています。仕事に極端に偏らないワーク・ライフ・バランスの取れた生活を送ることは、男性の健康と生活の質を高める鍵の1つでもあります。

ワーク・ライフ・バランス社会の実現に向けて

性別にかかわらず仕事とそれ以外の活動との調和のとれた生活を送ることができるワーク・ライフ・バランス社会は、女性にとってはもちろん、男性にとっても、そして社会のあらゆる人々にとって、より生きやすい社会ではないでしょうか。ワーク・ライフ・バランス社会の実現に向けて、政治や経済のリーダーたちの積極的な取り組みに期待するとともに、私たちも一人ひとりもできることから始めていければと思います。



たが ふとし

多賀 太さん

多賀太さんには、5月にセンター主催講座でも登壇して頂きます。
ぜひ、ご参加ください。(講座案内ページ参照)

関西大学文学部教授

愛媛県生まれ。専門は、教育社会学、家族社会学、ジェンダー学。1990年代から、男性の問題の解決や生き方の問い直しに取り組む「メンズリブ」の市民活動に参加。2016年、女性に対する暴力防止の啓発に男性主体で取り組む一般社団法人ホワイトリボンキャンペーン・ジャパンを設立し共同代表に就任。公益財団法人日本女性学習財団評議員、NPO法人デートDV防止全国ネットワーク理事。

著書に

『男性の非暴力宣言』（共著、岩波書店）

『男子問題の時代?』（学文社）

『揺らぐサラリーマン生活』（編著、ミネルヴァ書房）

最新刊

『ジェンダーで読み解く男性の働き方・暮らし方』

（時事通信出版局）など



おすすめ図書

図書・情報スペースでは、男女共同参画社会をめざすさまざまな活動をサポートする情報を収集し、発信しています。
図書貸出は、ひとり3冊・2週間までです。

『ジェンダーで読み解く男性の働き方・暮らし方』

2022年・時事通信社

多賀太 著



ジェンダー格差の是正が叫ばれて久しいながらも、いまだに男性稼ぎ手社会による「ワーク・ライフ・アンバランス」な人々が男女ともに多い日本。ジェンダー平等を実現することは女性だけではなく男性の生きづらさも解消することになるということを様々な根拠とともにわかりやすく読み解く。様々な男性に読んでほしい一冊。

『ののとはな通信』

2018年・KADOKAWA

三浦しをん 著



ののとはなの2人の少女の半生を、2人による文通形式で描いた小説。友人や恋人といった名前を付けられる関係性を超え、人生を通じて相手の幸せを願うような人との出会いは性別関係なく素晴らしいものだと思わせる。この物語を読む年齢によって読後の感想が変わるような、10年後にまた読み返したくなる作品。

『ネコは言っている、ここで死ぬ定めではない』

2021年・イースト・プレス

春日武彦 / 穂村弘 / ニコ・ニコルソン 著



「俺たちはどう死ぬのか?」をテーマにした、精神科医で小説家の春日武彦と歌人の穂村弘による対談集。「作家の車谷長吉は生イカを丸呑みして死んだ」など、著名人の死に方や自身の経験を通して理想の死に方について考える1冊。「『どう死ぬのか』は『どう生きるか』の延長線上であり、その最終結部である」という一節にはっとさせられる。

『ルックバック』

2021年・集英社

藤本タツキ 著



藤野とひきこもりの京本、漫画好きな2人の少女の友情と絆を描いた、大ヒット漫画『チェンソーマン』の藤本タツキによる話題の読み切り長編漫画。絵の表現がとにかくすばらしく、1本の映画を観たような感覚になる作品。あれこれと説明されるよりもとにかく読んでほしい。筆者は泣かずに読めたことがない。

ご挨拶（新たな5年間がスタートします）

平素より、伊丹市立男女共同参画センター ここいろ をご利用いただき、誠にありがとうございます。

この度、伊丹市公の施設に係る指定管理者の指定の手続き等に関する条例第8条第1項の規定により、令和5年4月1日から令和10年3月31日の5年間、伊丹市立男女共同参画センターの指定管理者として受託2期目、引き続き管理運営させていただくことになりました。

指定管理者として、皆さまのご期待に添えますよう、スタッフ一同全力で伊丹市の男女共同参画推進に向けて取り組んで参りますので、どうぞ皆さまのご愛顧・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西

理事長 田上時子

講座・イベント レポート

「ここいろミモザの日」2023年3月5日(日)

たくさんの方にご来場いただき、ありがとうございました！



パネル展
「アフガニスタンの女性たち」

相談案内

相談予約電話番号 **072-781-5516**

一時保育 1歳～就学前まで(無料)、予約時にお申し出ください。

※祝日等により相談日が前後することがあります。【2023年度】



さまざまな悩みを整理し、自分らしく次の一歩を踏み出すための専門のカウンセラーや弁護士が、あなたと一緒に考えます。相談方法は、面接と電話相談があります。相談は無料、秘密は厳守いたします。

相談事業名	曜日	時間	備考
女性のための悩み電話相談	月曜日 第1日曜日	10時～14時	直通電話 072-781-5531
女性のためのカウンセリング	火曜日 (1回50分)	10時～14時	面接・要予約 (一時保育有)
	NEW 第2・第4金曜日 (1回50分)	16時～20時	
女性のための法律相談	NEW 第4土曜日 (1回45分)	10時～13時	面接・要予約 (一時保育有)
女性のためのチャレンジ相談	第2木曜日 (1回50分)	10時～14時	面接・要予約 (一時保育有)
セクシュアルマイノリティ相談	NEW 第1・第3金曜日	15時～18時	直通電話 072-767-1012 メール相談 QRコードから
男性のための悩み電話相談	第1土曜日	15時～18時	直通電話 072-781-5532
ハローワーク伊丹職員による 女性と子育て両立のための 就労支援相談	偶数月 第4金曜日 奇数月 第2水曜・第4金曜日 (1回50分)	9時～12時	面接・要予約 ※前日 17時まで (お子様同伴可)



【男性のための悩み電話相談】

新しくカードが出来ました。
市内公共施設等にも配架しています。ぜひ、ご活用ください。



第1土曜日 午後3～6時

tel.072-781-5532



SDGsで学ぼう!
inここいろ



学生が取り組む
持続可能な国際協力



親子で楽しむ
音楽と工作ワークショップ



聴いて、見て、考えよう!
月経の人類学

ここいろ市民ネット会議 “ここサークル” メンバー募集!

伊丹市在住・在勤・在学・市域で活動する個人またはグループで、ジェンダー平等の推進を目指す方であれば、どなたでもメンバーになることができます! 皆様のご参加、お待ちしております。

次回ミーティング

7月2日(日) 10:00～11:30



メンバー登録
こちらから



講座案内

「性別に関わりなく、誰もが自分らしく生きられる社会づくりの拠点」施設として、男女共同参画の学習を目的とする講座を実施しています。

申込み・問合せ 伊丹市立男女共同参画センター TEL.072-781-5516

こころ ジェンダー講座

伊丹市は、性別にとらわれず一人ひとりを大切にするジェンダー平等のまちをめざしています。(*)一人ひとり「ここ＝個々」が自分の色「いろ」を彩ることのできる拠点施設として名付けられた「こころ」で、身近なことからジェンダーについて考えてみませんか。「アンコンシャス・バイアス」(無意識の思い込み)に注目し、考えてみます。
(※第3期伊丹市男女共同参画計画より)

5/13.20.27

(各土曜日)

10:00～12:00

[3回講座]

①	5/13 (土)	アンコンシャス・バイアスに 気づく～ジェンダーとは～	小川 真知子さん NPO法人SEAN理事長
②	5/20 (土)	トランスジェンダー 生徒交流会からの発信	土肥 いつきさん トランスジェンダー 生徒交流会世話人
③	5/27 (土)	ジェンダーで読み解く 男性の働き方・暮らし方	多賀 太さん 関西大学文学部教授

対象：テーマに関心のある方30人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき1回300円、要予約)

申込み：電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

こころカフェ



お茶を飲みながら、一緒に語り合いませんか。
テーマを設けてファシリテーターが進行します。

日時	テーマ	クラフト工作	受付開始
5/22(月) 13:30～15:00	子どもにかけたい 前向きな言葉	紙コップで作る パクパクおもちゃ	4/15(土) ～
7/24(月) 13:30～15:00	居心地の良い 人間関係	牛乳パックで作る 簡単おもちゃ	6/15(木) ～

定員：各回10人
(お子さん連れの参加も可)
参加費：無料
申込み：電話・窓口で受付
(先着順)

ファシリテーター 竹下 郁代さん(CAPスペシャリスト)

あたたかい自己分析と包括的な考え方

自立促進講座

自尊感情を養うには「からだの栄養」が不可欠で、高めるには「こころの栄養」も大切です。双方の栄養が足りている毎日では、すべての可能性がいきいき芽生えてきます。しかし、現実の社会ではあっちもこっちも栄養不足でその結果、何が起こるのでしょうか。「生きること、学ぶこと、出会うこと、つながること」を体感し、学び育てるジェンダーワークショップです。

6/2.9.16.23

(各金曜日)

10:00～12:00

[4回講座]

①	6/2 (金)	自己分析のキホンと 包括的な考え方とは	金 香百合さん HEAL ホリスティック 教育実践研究所所長
②	6/9 (金)	あたたかい自己分析<I>	
③	6/16 (金)	あたたかい自己分析<II>	
④	6/23 (金)	あたたかい 未来図を描こう	

対象：テーマに関心のある女性20人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき1回300円、要予約)

申込み：5/1(月)9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

こころエンパワメント★カフェ「子どもの権利を考えよう！」 ～CAP ミニ大人ワークショップ～

お茶を飲みながら、気軽に話してみませんか。お子さん連れの参加も可です。

対象：テーマに関心のある方10人

参加費：無料

申込み：5/1(月)9:00～ 電話・窓口で受付(先着順)

6/4(日)

10:30～12:00

ファシリテーター むこがわCAP スタッフ

6月23日～29日は、男女共同参画週間です。

女性の視点を取り入れたまちづくり

男女共同参画推進セミナー

「同性パートナーシップの宣誓制度」や、全国に先駆けて「就職氷河期世代」を対象とした職員の採用試験などを行った元宝塚市長の中川智子さんが、政治に参画することの大切さ、女性が勇気をもって決定権を有する所に出ていくことの大切さを伝えます。

6/18(日)

13:30～15:30

対象：テーマに関心のある方30人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき300円、要予約)

申込み：5/1(月)9:00～ 電話・窓口・センター HP で受付(先着順)

講師 中川 智子さん
元宝塚市長

こころ☆ぱぱサロン 子育てを語ってみよう

男性セミナー

速さや効率が求められる仕事と違うのは、子育ての世界には「正解がない」こと。
今まで誰とも話したことのない「パパの子育て」について、思いを語ってみませんか。

7/8(土)

10:00～12:00

対象：子育て中の男性15人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき300円、要予約)

申込み：6/1(木)9:00～ 電話・窓口・センター HP で受付(先着順)

進行役 チームパパカフェ
福島 充人さん 濱田 智崇さん
新道 賢一さん

映画から考えるジェンダー

生き方アップデート講座

映画上映「アンネ・フランクと旅する日記」&トーク

第2次世界大戦下にユダヤ人の少女アンネ・フランクが空想の友だち宛てにつづっていた「アンネの日記」を原案に描いたアニメーション映画「アンネ・フランクと旅する日記」を上映します。(2021年制作・99分・日本語字幕版上映)

7/21(金)

18:00～20:00

対象：テーマに関心のある方20人

参加費：無料 自由席(開場17:45～)

申込み：6/15(木)9:00～ 電話・窓口・センター HP で受付(先着順)

トーク・進行 田上 時子さん
NPO法人
女性と子どものエンパワメント関西理事長

夏休みを元気に過ごすためのココロワークショップ

中高生対象講座

学校ではないところで、秘密が守られて、安心・安全な場所で、少し勇気を出して、心のうちを話してみませんか。困っているけどどうしたらいいかわからないこと、悩んでいることを話して心を軽くしましょう。他者の意見も聞きながら、自分の考えの整理が出来るワークショップです。

8/3(木).10(木)

10:00～11:30

対象：テーマに関心のある中学生・高校生15人

参加費：無料

申込み：6/1(木)9:00～ 電話・窓口・センター HP で受付(先着順)

講師 荒木 美恵さん
スクールカウンセラー

はじめてのCAPワークショップ ～小学1・2年生対象～

CAP(キャップ)とは、子どもが暴力から自分を守るための人権教育プログラムです。子どもを取り巻く暴力から自分の身を守るためにどう対応するか、「自分の大切さ」を教え、一人ひとりが本来持つ力を引き出す(＝エンパワメント)プログラムです。

8/6(日)

14:00～15:30

対象：子どもワークショップ15人、大人ワークショップ20人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき300円、要予約)

申込み：7/1(土)9:00～ 電話・窓口で受付(先着順)

ファシリテーター
NPO法人女性と子どもの
エンパワメント関西スタッフ

ここいろ

愛称「ここいろ」は、
一人ひとり（ここ＝個々）が
自分の色（いろ）を彩ることのできる
拠点施設であることを願って、
公募で名付けられました。

伊丹市立
男女共同参画センターは
SDGs を支援しています



目標 5(ジェンダー)
ジェンダー平等を実現しよう

開館時間

月～土 午前9時～午後9時
日曜日 午前9時～午後5時30分
*第1日曜・偶数月の第3日曜

休館日

日曜日(左記開館日除く)、祝日
年末年始(12/29～1/3)

アクセス

阪急伊丹駅から徒歩約7分/JR伊丹駅から徒歩約8分
お車で越しの際は、宮ノ前地区地下駐車場(有料)等をご利用ください。

ホームページ



Instagram



facebook



LINE



伊丹市立男女共同参画センター ここいろ

指定管理者

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西

〒664-0895 伊丹市宮ノ前2-2-2 伊丹商エプラザ5階

電話：072-781-5516

FAX：072-781-5530

<https://www.itami-kokoiro.jp>